



旧石器時代(2) 石器をつくる

今回は、旧石器シリーズの一環として、前回の「旧石器時代の石器石材」に続き、石器づくりの方法を紹介します。この試みが旧石器人の英知に少しでも触れていただく機会になれば幸いです。

1 石器づくりとは

石器づくりの方法は、遺物の観察、製作実験および現世の狩猟採集社会に残された石器製作の技術などを考慮して復元されています。

(1) 石器の石材

緻密で硬くて割りやすい石材が適しています。市内の遺跡から発見された石器には、主にトトロ石(デイサイト)、珪質頁岩、メノウなどの地元の石材が使われていますが、今回は、より加工しやすい黒曜石(いわば「天然のガラス」)で試作品を作りました。



I 工具一式(鹿角、河原石、動物の皮)



II 黒曜石を叩いて石のかけらをはぐ。



III 黒曜石のかけら



IV 鹿角のハンマーで縁を加工する。



V 鹿角の先端で圧力を加え仕上げを行う。VI できあがり

▲石器製作の一例(石槍)



橋本 勝雄

市史編さん委員会 考古部会専門調査員
公益財団法人 千葉県教育振興財団 上席文化財主事

(2) 石器づくりの道具

基本的に、①石のハンマー(石のかけらをはぐときに使う)。②鹿角製の工具(硬くて弾力があり、石のハンマーではがされたかけらを細かく加工するのに適している)。③手袋とひざ当ての皮(身体の保護)が必要です。

(3) 石器の作り方—石槍の場合—

①まず石のかたまりを石のハンマーで斜めにたたいて石のかけらをはぎます。②次に鹿角で石のかけらの縁を細かくたたいて加工しますが、この時できるだけ完成品に近い材料を選び手間を省きます。③最後に鹿角の先で圧力を加えて仕上げを行います。

2 石器づくりに必要なこと

石器づくりは、素材が粘土である土器づくりと違って修正がむずかしく、また、上達するためには、基礎知識ばかりではなく、良い石材を見抜く力と効果的な打撃を加えるための技術が必要です。ただし、マニュアルづくりは難しいようです。なぜならば石器づくりは一種の職人的技能であり、理屈抜きの部分が大きいからです。そのため達人になるためには、失敗を恐れず多くの経験を積まなければなりません。そして何よりもモノ作りを楽しみ数多くの石をたたいて感覚を養うことが大切なのです。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化振興グループ 電話:52-1111(内線343)